



稲を刈り取る児童

地域をより深く学び、農業について考える 神内小の児童が稲刈りを体験

神内小学校の3～6年生までの児童が9月1日、学校近くの田んぼで稲刈りを体験しました。

これは「神内子安の里の会」の協力のもと、米作りに関わり地域をより深く学ぶとともに、食について考えることを目的に毎年行っており、今年で16年目を迎えました。

児童たちは、鎌の使い方と稲の扱い方を教わった後、田んぼで一生懸命に黄金色に実った稲穂を刈り取り、ていねいに積み上げていました。

収穫したお米は、秋に学校でおにぎりにして味わうほか、町社会福祉協議会が運営するデイサービスに寄贈する予定とのことです。

Town topics

9 / 1



まなびの郷が笑顔であふれた特別な一日に！ MANAVO LAND 2026 を開催

まなびの郷イベント実行委員会は8月23日、子ども向けのイベント「MANAVO LAND（まなぼらんど）2026」をまなびの郷で開催しました。

今回で3回目となる本イベントは、同実行委員が夏休みの子もたちにとって、心に残る「最高の思い出」をつくるとともに、「安心して過ごせる居場所」を提供したいとの思いから企画したもので、ボランティアスタッフ総勢107名の協力のもと、実施されました。

今回は、空気で膨らませた特大エアーストーム3基に加え、最高8メートルのジャンプができるバンジートランポリンや、相野谷診療所長の森本真之助医師のご協力のもと、医療について楽しく学べる医療体験コーナー「マナボクリニック」を実施したほか、新たに設置した「防災コーナー」では、自ら非常食を料理し試食する体験を行いました。イベントには、開始前から長蛇の列ができるほどの大盛況で、子どもたちや親子連れなど約2,800人が来場し、夏休みの楽しい一日を過ごしていました。



04

01・02. きらめきホールには特大のエアーストーム3基設置された。03. 高さ6メートルからの絶叫スライダー。04.05. 空高くジャンプできる「バンジートランポリン」。06. 昔遊び体験。07. 防災コーナー。08. 射的コーナー。09. 聴診器で自分の心臓の音を確認したマナボクリニック。



03

Town topics

8 / 23

15年前の経験を、未来の備えにつなぐ 大水害から学ぶ、命を守る地域の備え

県および町は9月5日、まなびの郷でみえ風水害対策の日シンポジウム・講演会「紀伊半島大水害に学ぶ～災害から15年を振り返る～」を開催しました。

これは、紀伊半島大水害から15年を迎えるにあたり、災害の教訓を風化させず、改めて防災について考えることを目的に開催されたものです。

講演会では、町総合防災行政アドバイザーの松尾一郎氏、津地方気象台長の山本治氏が、それぞれタイムラインの重要性や新しい防災気象情報について、解説しました。

続くパネルディスカッションでは、「大規模風水害にどう備えるか」をテーマに4人のパネリストが意見を交わし、参加者は地域防災について考えを深めていました。

Town topics

9 / 5



01

01. パネルディスカッションを行った4人のパネリスト。02. 講演を行った松尾氏。



02



防災かるたの様子

いざというときの備えのために 井田小の児童が防災学習会を実施

井田小学校は9月8日、三重県教育委員会より学校防災アドバイザーを講師に迎え、1～4年生までの児童を対象に防災学習会を実施しました。

これは、いつ起きてもおかしくない南海トラフ地震や津波、台風などの自然災害から自分自身を守る力をつけることを目的に実施されました。

児童たちは、教室で防災学習を受けたあと、防災啓発車による地震体験をしたり、防災すごろくや防災かるたなどで防災に関する知識を深めたりし、防災への意識を高めていました。

Town topics

9 / 8



08



06



09



07



05